

地域集 特と歩む SPECIAL EDITION

まちの「風土と文化」をよむ

三重の県土に刻む新しい21世紀の 都市計画

地域協働型まちづくりプロジェクトの実践



●地域協働型 まちづくりプロジェクトの実践

浅野研究室では、下記の第1～第3の考えに基づいて、県内の自治体から要請を受け、都市の中心に位置する歴史的市街地を対象に、歴史文化的景観の保全活用、生活環境の改善（バリアフリー化など）、地域コミュニティや地域経済の活性化などの目的に即した地域協働型まちづくりプロジェクトを市民と共に実践しています。

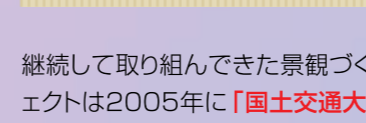
代表的なものとしては、全国的に注目された市民と共に将来都市像を描いた伊勢市都市マスタープラン、東海道関宿（旧関町）の伝統的町並みの中に防災・景観・福祉・観光をキーワードに計画・設計した百六里庭（公園）、旧上野市の城下町筋をつなぐ街路空間を計画・設計したウォーキングトレイル、旧大山田村の農村風景づくりを村民参加で取り組んだ「そうぞのさと」の地域景観整備事業、伊勢神宮の台所と呼ばれる河崎地区の伊勢河崎商人館の蔵を活用したまちづくり、などが上げられます。

おかげさまで関宿の百六里庭は、三重県で初めて本格的に市民と自治体、専門家が協働して公共施設を設計した事例となり、1998年に「三重県さわやかまちづくり賞（景観部門）」を、また旧大山田村で数十年間

●「20世紀都市」から「21世紀都市」へ
今、私たちは、少子高齢社会、地球環境問題、財政再建などの厳しい社会状況を背景に、20世紀に展開した都市計画やまちづくりのあり方を**変える**ことが求められています。それでは、**目指すべき「21世紀都市」**とはどのようなものなのでしょうか？

- 第1 「うつわ」(都市の大きさ)**
郊外に拡散しすぎた都市を少しずつ小さくコンパクトに。
- 第2 「なかみ」(計画内容の質)**
近現代と共に都市の中から失われてしまった人間性・風土性・歴史文化性を回復し、経済性・効率性とのバランスがとれた都市計画の内容へ。
- 第3 「プロセス」(計画の策定の仕方)**
決して密室にせずひらかれた場の中で、関係者(市民・NPO・企業・自治体・大学など)の協働によって計画を策定、実践へ。

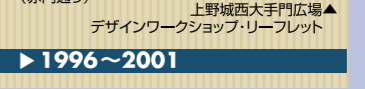
東海道関宿「百六里庭」 ◎亀山市(旧関町)◎



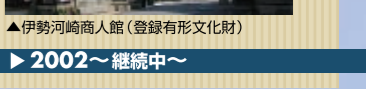
大山田村地域づくり景観整備事業 ◎伊賀市(旧大山田村)◎



上野市ウォーキングトレイル計画 ◎伊賀市(旧上野市)◎



伊勢河崎商人館景観まちづくり ◎伊勢市◎



★国土交通大臣表彰
まちづくり功労者(受賞)2005年

▶1994～継続中～

伊勢市都市マスタープラン ◎伊勢市◎



市民ワークショップ4



▶1996～継続中～

継続して取り組んできた景観づくりプロジェクトは2005年に「国土交通大臣表彰まちづくり功労者」を受賞し、対外的にも高く評価して頂きました。また旧大山田村では2004年に大山田村長表彰、伊勢市では2005年に伊勢市長表彰も頂きました。
現在も複数のまちづくりプロジェクトが進行中であり、今後も地域圏大学として三重の風土性、歴史文化性を活かした地域協働型まちづくりプロジェクトを実践していく予定です。

三重大学工学部建築学科・助教授
Asano, Satoshi 浅野 聡
[URL] <http://www.arch.mie-u.ac.jp>

